

【保育所版】 秋田県福祉サービス第三者評価 評価結果票 (県社協 ⇒ 保育所(園))

評価実施基準日	平成 20 年 3 月 18 日
評価確定公表日	平成 20 年 6 月 18 日
評価情報更新日	平成 年 月 日

◆ 評価を実施した機関

名称	(社会福祉法人) 秋田県社会福祉協議会
所在地	(〒 010 - 0922) 秋田市旭北栄町1番5号
TEL	(018) 864 - 2740
FAX	(018) 864 - 2742
E-mail	hyoka@akitakenshakyo.or.jp
ホームページURL	http://www.akitakenshakyo.or.jp

◆ 評価を受審した事業者

フリガナ 法人名称	(社会福祉法人) ユウジンカイ 雄仁会
法人 所在地	(〒 010 - 1423) 秋田市仁井田字仲谷地284
TEL	(018) 839 - 5375
FAX	(018) 839 - 5323
法人代表者	理事長 上村 清一
フリガナ 事業所名	あおぞら乳児園 ニョウジエン
サービス種別	保育園
管理者名	園長 上村 清正
開設年月日	昭和 59 年 4 月 1 日 定員数 45 名
TEL	(018) 839 - 7979
FAX	(018) 829 - 1574
E-mail	
ホームページURL	http://www8.ocn.ne.jp/~aozora-h/

◆ 評価の総評 (優れている点、改善を求められる点)

I 福祉サービスの基本方針と組織
<p>社会福祉法人「雄仁会」の理念である「奉仕の精神と社会貢献」を反映した保育理念を明文化しており、保育理念に基づいた保育方針や保育目標はわかりやすい内容で、パンフレットやホームページ、園の玄関や各保育室にも掲示して地域や保護者に周知している。また、会議や毎日の打ち合わせで職員全員で唱和し、精神に沿った保育の実践に結びつけている。</p> <p>15年長期計画や主な事業運営は、法人の運営委員会や職員会議、園の指導部会で検討するなど組織的に策定・周知しており、ISO (品質管理) 方式をとり入れ、評価・見直しながら実施している。</p> <p>園長は保育士の資格を有しており、現場経験を生かした自らの規範となる行動により、管理者としての役割と責任を果たしている。</p> <p>今後は、遵守すべき法令等をリスト化するなど、より具体的に周知を図るための取り組みが望まれる。</p>
II 組織の運営管理
<p>人事考課の目的を職員が理解したうえで実施しており、評価基準は経験年数を考慮するなど客観性・公平性が確保され、働きやすい職場環境づくりにも努めている。</p> <p>運営に関しては、ホームページを毎月更新し、地域に対して年2回、2,500部のチラシを配布したり、町内会に加入するなど、地域とのふれあいや協力に努めており、嘱託医による子育て相談や離乳食づくりのパンフレット、毎月のお誕生会への招待、出前保育など、園が有する機能を地域に還元するよう積極的に取り組んでいる。</p> <p>必要なマニュアルをすべて整備し、不適切サービスチェック表や事故報告書の原因分析、対応策等も組織的に行われており、遊具の定期的な点検も実施するなど、子どもの安心・安全を第一に考えている。</p>
III 適切な福祉サービスの実施
<p>玄関に意見・要望・苦情箱を設置し、さらに第三者委員へ直接郵送できるよう切手を貼った封筒を準備しているほか、苦情や意見等には検討のうえ速やかに対応しており、苦情解決委員会でも報告している。</p> <p>年2回、園独自で保護者アンケートを実施しており、結果の集計・分析を基にして会議で課題や改善策を話し合ったうえで保護者へ回答しているほか、日々の送迎時や連絡ノートを活用して保護者の意向を確認するとともに、個人面談や保護者懇談会等を実施して利用者の満足度の向上に努めている。</p> <p>各保育室への「保護者と会話をしていますか」「子どもと向き合い子どもの目線で話をしていますか」の表示は、保育士としての基本を示しており、全職員が常に意識しながら、子どもや保護者を尊重した対応を心がけている。</p> <p>これまでにISOの認証や先駆的な第三者評価の受審など、組織として保育サービスの質の向上に積極的に取り組んでいる。</p>
A 子どもの発達援助、子育て支援、安全・事故防止
<p>保育の基本方針に基づき、年間計画や年齢別指導計画・個人指導計画を作成し、PDCAサイクルによる四半期毎・月毎の評価・反省を行い、訂正や見直しは赤ペンで記入するなど全職員がわかりやすいよう工夫している。</p> <p>全職員が保育サービスマニュアルを持参し、子どもの快適な遊びや安全、発達に関して質の高いサービスを提供するための共通認識を持ち、保育サービスの標準化を図っている。</p> <p>食事に関しては、献立や食材の選び方、刻み方のほか、延長保育の軽食の準備等にも配慮し、幼児食と離乳食のサンプルを展示している。</p>
※ その他、特記事項
<p>乳児へのやさしい眼差しや穏やかな接し方に、低年齢児の保育園ならではの家庭的で暖かな雰囲気が感じられる。</p>

◆ 細目の評価結果（基本評価55項目）

項 目	評価結果	優れている点・改善を求められる点	評価結果に対する事業者からの意見
I 福祉サービスの基本方針と組織			
1 理念・基本方針			
(1) 理念、基本方針が確立されている。			
①理念が明文化されている。	a	「奉仕の精神と社会貢献」という法人理念を保育理念に反映し、保育園の使命や果たす役割等を明文化している。	今後も、法人理念・基本方針を基にした、保育サービスの提供に取り組んでいきます。
②理念に基づく基本方針が明文化されている。	a	6項目の具体的な基本方針を掲げており、法人及び保育園の理念との整合性もとれている。	
(2) 理念や基本方針が周知されている。			
①理念や基本方針が職員に周知されている。	a	職員の理解を深めるため、毎日の打合せ時や職員会議、指導部会等で唱和しているほか、各保育室にも掲示して目につくよう配慮している。 また、ISO（品質管理）方式をとり入れ、勉強会において保育理念や方針の具体化、保育内容との関わりを継続的に学んでいる。	当園の保育に対する理念や基本方針を職員がよく理解し、保育サービス提供に反映させていくと共に、今後も地域への周知・理解に努めていきます。
②理念や基本方針が利用者等に周知されている。	a	保護者には、入園時や保育参加の際にパンフレット等により説明しているほか、玄関や保育室などにも掲示して理解を促している。 また、ホームページや地域へ配布するチラシなどにも理念や方針を掲載し、周知と理解に努めている。	

項 目	評価結果	優れている点・改善を求められる点	評価結果に対する事業者からの意見
2 計画の策定			
(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。			
①中・長期計画が策定されている。	a	「15年長期事業計画」を策定し、園舎立替事業や入園児の見通し、職員体制等の課題や問題点を明らかにしたうえで目標や展望を明確にしている。 今後は、保育内容に関する将来的な展望も具体的に盛り込むことが望まれる。	保育所保育指針の改訂にともない、これまでの保育を検証し、保育内容に関する事で中・長期的な計画を立て進められるものについては盛り込んでいきます。また事業計画については確実に実施していけるように努めていきます。
②中・長期計画を踏まえた事業計画が策定されている。	a	15年長期事業計画を各年度の事業計画に反映させ、特に園舎立替については具体的に経費の見積りを立てている。 また、不適切サービスの発生件数を削減するなどの取り組みも明確にしている。	
(2) 計画が適切に策定されている。			
①計画の策定が組織的に行われている。	a	ISO等の会議のなかで「内部監査」の一環として評価や見直しを組織的に行い、法人全体の職員会議や園の指導部会において職員に説明・討議し、その結果を反映させている。	今後も、評価や見直しを組織的に行うと共に、職員・利用者へ計画を周知していき理解を深められるように努めていきます。
②計画が職員や利用者に周知されている。	a	計画には長期計画をとり入れ、指導部会でも詳細に記録し、職員が理解しやすいよう周知している。 保護者に対しては、年間行事計画や方針など、必要に応じて周知している。	

項 目	評価結果	優れている点・改善を求められる点	評価結果に対する事業者からの意見
3 管理者の責任とリーダーシップ			
(1) 管理者の責任が明確にされている。			
①管理者自らの役割と責任を職員に対して表明している。	a	組織図で明確にしているほか、指導部会での説明や職員の研修復命等への適切な助言など、常に質の高い保育サービスを追及しながら、責任を果たしている。	説明や助言等、保育サービスの向上につながる取り組みを継続し、管理者の責任を果たします。また、保育所に関わる法令等をまとめていき、会議等の場で周知・徹底していきます。
②遵守すべき法令等を正しく理解するための取り組みを行っている。	a	職員倫理綱領や個人情報保護法などの関連法令に基づき、年度当初の会議で説明するなど、職員の理解にも努めている。 今後は、基本的な法令を整備しリスト化するなど、より周知が図れるような取り組みが望まれる。	
(2) 管理者のリーダーシップが発揮されている。			
①質の向上に意欲を持ちその取り組みに指導力を発揮している。	a	人事考課プロセスで職員の自己評価に対する評価・助言を行い、管理者としての役割を果たしている。 また、保育サービスの質の向上について会議等や保護者アンケートの結果分析により課題の把握に努めている。	職員一人ひとりが専門性を向上させていくことにより、施設全体の保育サービスの向上に努め、管理者としての役割を果たしていきます。また、各データを分析し、業務の効率化・改善に取り組んでいきます。
②経営や業務の効率化と改善に向けた取り組みに指導力を発揮している。	a	主任以上による運営委員会で業務内容の改善等について検討し、その結果を職員会議で示し、職員全体の意見を反映させるよう努めている。 また、財務の収支状況や入退園児の推移等を分析し、自らの現場経験を生かして業務の効率化や改善に取り組んでいる。	

項 目	評価結果	優れている点・改善を求められる点	評価結果に対する事業者からの意見
II 組織の運営管理			
1 経営状況の把握			
(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。			
①事業経営をとりまく環境が的確に把握されている。	a	<p>全県・全国の研修等へ積極的に参加しているほか、情報誌の活用や保育協議会とも連携を図りながら、保育事業の動向把握に努めている。また、地域へのチラシ配布や出前保育等の機会を通じて情報把握に努めている。</p>	<p>経営状況の把握に努め、課題や検討事項を明確にして改善に取り組んでいきます。</p> <p>③の評価については実施評価Aのみで、B以下の評価はすべきでないと考えます。理由として、(1)外部監査は義務化されていない。(2)外部監査を受けるべきとする根拠が明確ではない。(3)多額の費用がかかる。外部監査の意義は、そもそも会計・経理的要素を重んじ、十分な知識を持った有資格者(公認会計士・税理士)が行い、正しい会計処理が行われているかを精査する事が重要な役目であると考えます。確かに事業経営の存続に支障が無い等、広く事業内容を掌握し助言するべき役目も併用するわけではありますが、現在の保育所運営においてそこまで求めなければならない理由が見あたりません。一般企業においても、一定水準にある企業は公認会計事務所に委託し外部監査を実施しておりますが、多くの中小企業は未実施が現実であります。ましてや自治体からの委託事業として事業運営をしている認可保育所においては、収入も支出も一定枠の中で、且つ保育士の制約等の制限を受けながら事業運営していくからには、経費率等の改善に努めるなどということは絵空事に等しいと判断され、外部監査を受けることが絶対項目であることに納得できません。しかしながら、今後推進委員会での十分な検討をお願いする事として、今回の評価を受け入れる事とします。</p>
②経営状況を分析して改善すべき課題を発見する取り組みを行っている。	a	<p>過去の入園児データを分析・整理し、運営委員会で運営状況と保育サービスの内容改善等について検討しており、計画にも反映させている。</p>	
③外部監査が実施されている。	c	<p>経理規定に則って決算報告等を行っているが、専門家による外部監査は実施していないため、今後、透明性を確保するための方策が望まれる。</p>	

項 目	評価結果	優れている点・改善を求められる点	評価結果に対する事業者からの意見
2 人材の確保・養成			
(1) 人事管理の体制が整備されている。			
①必要な人材に関する具体的なプランが確率されている。	a	法人の事業報告で総括し、基本的な考え方を確立しており、必要な人材を確保している。 新年度前に職員定数を考慮して職員配置を行い、それに合わせて職員採用を行っており、年度途中の園児数の変化には必要に応じて対応している。	人事管理については、市より通知される入所予定者リストを参考に必要な人材を確保していきます。 また考課プロセスを用いて、職員の専門性を高めていけるように努めます。
②人事考課が客観的な基準に基づいて行われている。	a	人事考課の目的や効果を管理者を含む職員が十分理解しており、経験年数を考慮した自己評価申告や自己目標も具体的に記入できる。 効果プロセスでは「評価基準」を明確にし、客観性・公平性を確保して出された効果表を基に、職員の要望等も考慮したうえで見直している。	
(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。			
①職員の就業状況や意向を把握し必要があれば改善する仕組みが構築されている。	a	職員就業規定に基づき、現在7段階の勤務表になっており、職務内容の実績等を基に個別面談も行うなど配慮している。	職員の就業状況に配慮した職場環境の構築に努めます。
②福利厚生事業に積極的に取り組んでいる。	a	秋田市勤労者福祉振興会の福利厚生事業（ワークパル）に加入しており、健康診断やインフルエンザ、はしかの予防接種等も実施しているほか、職員親睦会も自主的に行っている。	

項 目	評価結果	優れている点・改善を求められる点	評価結果に対する事業者からの意見
(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。			
①職員の教育・研修に関する基本姿勢が明示されている。	a	職員研修規定に基本姿勢を明示し、経験年数や職種に応じて幅広い内容の研修に参加できるよう配慮しており、職員の意見もとりに入れている。	保育所保育指針の改定に考慮し、職員の質の向上が図れるように取り組みます。
②個別の職員に対して組織としての教育・研修計画が策定され計画に基づいて具体的な取り組みが行われている。	a	職員の経験年数や職種のほか、人事考課の自己申告書による希望、研修履歴の内容を参考にして年間研修計画を作成しており、それに基づいて参加できる仕組みをつくっている。	
③定期的に個別の教育・研修計画の評価・見直しを行っている。	a	研修参加者は報告書を提出し、主任、園長代理、園長が点検・助言のうえ評価・見直しを行っているほか、指導部会等でも復命発表し、成果を共有している。 また、年度末の人事考課において管理者が知識習得状況を確認し、翌年の研修計画に反映させている。	
(4) 実習生の受け入れが適切に行われている。			
①実習生の受け入れに対する基本的な姿勢を明確にし体制を整備している。	a	実習生受け入れマニュアルに意義や方針を明文化しており、受け入れ期間やオリエンテーション等、一連の具体的な方法を整備している。 また、実習における指導主任を配置し、職員の責任体制を明確にしているほか、受け入れにあたっては会議で職員に説明し、理解を得ている。	実習生受け入れを適切に行っていくための対応を継続していきます。
②実習生の育成について積極的な取り組みを行っている。	a	実習生指導計画表を整備し、実習生の年次ごとの体験や理解させたい事項も明記している。 また、学校からの要請に基づき実習プログラムを計画し、実習の効果を上げるよう努めている。	

項 目	評価結果	優れている点・改善を求められる点	評価結果に対する事業者からの意見
3 安全管理			
(1) 利用者の安全を確保するための取り組みが行われている。			
①緊急時（事故、感染症の発生時など）の対応など利用者の安全確保のための体制が整備されている。	a	<p>危機管理マニュアルや事故発生時のマニュアルなどを整備し、担当者と担当部署を決めて子どもの安全確保を第一に優先している。</p> <p>また、毎月避難訓練を実施し、保育室等には避難時における担当職員の役割や関連機関の一覧、火災発生時の110番通報の際に伝えるべき事項も掲示している。</p>	<p>今後も、子どもの安全確保を最優先に、緊急時の対応や取り組みについて協議・検証していきます。職員間で周知・徹底を図り対応していきます。</p>
②利用者の安全確保のためにリスクを把握し対策を実行している。	a	<p>不適切サービスチェックリストにより出された発生原因等を分析、検討のうえ対応策を講じており、毎月の指導部会で評価・見直しを行っている。</p> <p>また、事故報告書並びにチェックリストには園長の指示を記載し、再発防止とサービスの改善に努めている。</p>	
4 地域との交流と連携			
(1) 地域との関係が適切に確保されている。			
①利用者と地域との関わりを大切にしている。	a	<p>一昨年から町内会に加入し、防災訓練に職員が参加しているほか、園の掲示板には運動会や出前保育などの案内を掲示して、地域との交流を持てるよう働きかけている。</p>	<p>法人理念を基に、継続した地域福祉活動に取り組めます。また、ボランティアを積極的に受け入れ、施設への理解を図り、地域とのつながりを深めていくことにより、地域に必要とされる施設になれるように努めます。</p>
②事業所が有する機能を地域に還元している。	a	<p>ひよこ相談や出前保育、嘱託医による子育て相談、離乳食づくり等、地域住民に園の機能を活用してもらうよう積極的に働きかけている。</p> <p>また、毎月の誕生会を未就園児の解放日とするなど、いつでも遊びに来られるよう配慮している。</p>	
③ボランティア受け入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	a	<p>ボランティア受け入れの意義や方針をマニュアルに明文化し、受け入れに際してのオリエンテーションでは具体的な手順等を整備している。</p> <p>また、担当職員を決めており、会議で職員に説明し共通理解を図ったうえで受け入れている。</p>	

項 目	評価結果	優れている点・改善を求められる点	評価結果に対する事業者からの意見
(2) 関係機関との連携が確保されている。			
①必要な社会資源を明確にしている。	a	関係機関や団体等の連絡先一覧を事務室に掲示しているほか、児童虐待への対応マニュアルには必要な連絡先を明示し、職員に配布している。	今後も関係機関の周知を図り、連絡等が必要な場合には迅速に対応出来るようにしていきます。
②関係機関等との連携が適切に行われている。	b	高校生の保育体験学習を実施したり、地域の小学校の「教育を語る会」に園長が毎年参加しているが、町内会への加入や四ツ小屋地区社協との関わりも始まったばかりであり、今後は地域の主任児童委員や民生委員との定期的交流や連携を深めていくことが望まれる。	地域の社会福祉協議会や町内会・主任児童委員や民生委員との関わりを深め、保育所として協力出来る部分を検討し参加していく事で、地域福祉の拠点となるべく取り組んでいく。
(3) 地域の福祉向上のための取り組みを行っている。			
①地域の福祉ニーズを把握している。	a	地域住民に年2回、2,500部のチラシを配布しており、その際に地域のニーズ把握も行っている。 また、一時保育利用者を対象に、意見やアンケートを集約して具体的なニーズ把握に努めている。	積極的に地域へ足を運び、情報収集に努めていく共に、必要とされる保育サービスの検討・計画・実施につなげていきます。
②地域の福祉ニーズに基づく事業・活動が行われている。	a	地域子育て支援の一環として「ひよこ相談（来園・電話）」を実施しているほか、出前保育を実施して在宅での子育てを支援している。	

項 目	評価結果	優れている点・改善を求められる点	評価結果に対する事業者からの意見
Ⅲ 適切な福祉サービスの実施			
1 利用者本位の福祉サービス			
(1) 利用者を尊重する姿勢が明示されている。			
①利用者を尊重したサービス提供について共通の理解をもつための取り組みを行っている。	a	各保育室に「保護者と会話してありますか」「子どもと向き合い子どもの目線で話をしていますか」との表示があり、職員が常にこの言葉を意識し、子どもや保護者を尊重したサービス提供を心がけている。	利用者（児童・保護者）の受容・共感に努め、守秘義務を遵守します。
②利用者のプライバシー保護に関する規程・マニュアル等を整備している。	a	基本方針にプライバシーの尊重・保護を盛り込み、個人情報保護規定の内容を詳細に整備している。 また、個人情報保護に関する組織図や承諾書、誓約書も整理され、ボランティアや実習生にも守秘義務・個人情報保護を義務付けている。	
(2) 利用者満足の向上に努めている。			
①利用者満足の向上を意図した仕組みを整備している。	a	園独自の保護者アンケートは、園と保護者の信頼関係を築き、本人への対応も明確にするため、記名方式で年2回実施している。 また、個人面談や保護者懇談会等で意向を把握し、その報告を整理している。	利用者との毎日のコミュニケーションにより信頼関係を築いていくと共に、個人面談・懇談会・アンケート等で保育ニーズや要望等を把握し、明確な回答・対応を行っていきます。
②利用者満足の向上に向けた取り組みを行っている。	a	アンケートの実施結果は運営委員会で検討し、職員会議で確認したうえで回答する体制を整えており、回答結果を速やかに保護者に提示して、できることはすぐに対応している。	

項 目	評価結果	優れている点・改善を求められる点	評価結果に対する事業者からの意見
(3) 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。			
①利用者が相談や意見を述べやすい環境を整備している。	a	玄関に意見・要望・苦情箱を設置し、さらに第三者委員へ直送できるよう切手を貼った封筒を準備している。 また、連絡ノートへの記入や送迎時にもよく話を聴いているほか、いつでも相談等を申し出るよう説明している。	利用者の思いを、職員一人ひとりがしっかりと受け止められる事の出来る力がつけられるように努めます。また、意見・要望・苦情等については、迅速な対応を心掛けます。
②苦情解決の仕組みが確立され十分に周知・機能している。	a	苦情受付担当者、解決責任者を明確にし、苦情解決委員会を設置して解決する仕組みを整備しており、第三者委員の仕組みや委員の連絡先等も説明のうえ玄関にも掲示している。	
③利用者からの意見等に対して迅速に対応している。	a	苦情処理規定に基づき、苦情や意見等を受付書に記入後、検討内容及び処理結果、園長の指示・助言を記入のうえ速やかに対応しており、年2回の苦情解決委員会でも報告している。	
2 サービスの質の確保			
(1) 質の向上に向けた取り組みが組織的に行われている。			
①サービス内容について定期的に評価を行う体制を整備している。	a	全職員が保育サービスマニュアルを持ち、各種記録の中で自己評価を行い、ISOの取り組みの中で定期的に評価、見直し、改善する仕組みを確立している。 また、過去にも全国保育士養成協議会の第三者評価を受けるなど、保育サービスの質の向上に積極的に取り組んでいる。	定期的に評価、見直し、改善する仕組み用いて、保育サービスの質の向上に取り組んでいくと共に、職員間で周知・徹底していきます。
②評価の結果に基づき組織として取り組むべき課題を明確にしている。	a	評価結果に基づいてクラス担当で話し合い、その結果を指導部会で確認し、欠席した職員にも周知しながら職員全体の認識を深めている。	
③課題に対する改善策・改善計画を立て実施している。	a	評価結果から明らかになった課題や問題点をリーダー会議で話し合い、その後の指導部会でも説明・話し合いのうえ改善につなげている。	

項 目	評価結果	優れている点・改善を求められる点	評価結果に対する事業者からの意見
(2) 個々のサービスの標準的な実施方法が確立している。			
①個々のサービスについて標準的な実施方法が文書化されサービスが提供されている。	a	質の高い保育サービスを提供するため、保育サービスのマニュアルに沿って確認しながら実施しており、特に職員間の声かけ、連携が上手くとれている。	必要に応じ、保育マニュアルの見直しと改善を図り、職員間で周知・徹底していくことで、質の高い保育サービスの提供に向けた取り組みを行っていきます。
②標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	a	PDCAサイクルに則って四半期毎に検証、評価、反省を行い、訂正や見直しがあれば赤ペンで記入するなど、全職員がわかりやすいよう工夫している。	
(3) サービス実施の記録が適切に行われている。			
①利用者に関するサービス実施状況の記録が適切に行われている。	a	個別月計画や個人日誌、児童票のほか、個人面談報告や子どもの情報など、項目の書き方を統一して具体的に記録しており、記録内容にばらつきがないよう見やすく整備している。	個人情報保護規定に基づいた記録の管理を徹底し、職員が一貫した保育サービスを提供出来る様に、利用者一人ひとりの情報を職員間で共有化していきます。
②利用者に関する記録の管理体制が確立している。	a	文書保存規定や個人情報保護規定を整備し、それに基づいて、子どもに関する記録書類を鍵付きロッカーに適切に管理している。 また、請求様式等関係書類を整備し、いつでも対応できるよう努めている。	
③利用者の状況等に関する情報を職員間で共有化している。	a	子ども一人ひとりの発達状況や個別のケースについては報告・検討・記録を指導部会の中で行い、職員間でも共有化している。	

項 目	評価結果	優れている点・改善を求められる点	評価結果に対する事業者からの意見
3 サービスの開始・継続			
(1) サービス提供の開始が適切に行われている。			
①利用希望者に対してサービス選択に必要な情報を提供している。	a	ホームページを作成し、毎月更新しながら保育園のサービス内容などを広く紹介しているほか、地域にもチラシを配布するなど必要な情報を提供している。	施設で行われている保育サービスや保育の様子について、分かりやすく伝えることが出来るように、検討・改善し情報提供を行っていきます。またサービスの開始については、分かりやすく説明し、利用者の同意を得た上で行っていきます。
②サービスの開始にあたり利用者等に説明し同意を得ている。	a	利用希望者には予め詳細な資料を送付し、理解を深めるよう努めており、面接時にも詳しく説明のうえ同意を得ている。 また、説明資料は分かりやすく工夫しており、同意書も保管している。	
(2) サービスの継続性に配慮した対応が行われている。			
①事業所の変更や家庭への移行などにあたりサービスの継続性に配慮した対応を行っている。	a	個人情報保護規定を踏まえ、転園や退園時等に保護者から申請があった場合は、同意を得たうえで対応しており、文書を保管している。 また、相談窓口を設置して保育終了後も継続的に相談できる体制を整えている。	必要に応じて、対応できるシステムが整えられております。
4 サービス実施計画の策定			
(1) 利用者のアセスメントが行われている。			
①定められた手順に従ってアセスメントを行っている。	a	身体状況や生活状況を統一した様式でアセスメントしており、月毎の評価・反省を記して翌月の計画に反映させている。	アセスメントの手順に沿って、把握した状況から、課題を明らかにして、全職員で周知していくように努めます。
②利用者の課題を個別のサービス場面ごとに明示している。	a	児童票や個人月計画のほか、気になる子どもや共通認識が必要な子どもに関しては、ケース会議等で個別のニーズと課題を明らかにしている。 また、保育指針を踏まえた個人月計画に月毎の配慮事項を具体的に記している。	

項 目	評価結果	優れている点・改善を求められる点	評価結果に対する事業者からの意見
(2) 利用者に対するサービス実施計画が策定されている。			
① サービス実施計画を適切に策定している。	a	主任保育士をサービス計画の責任者として位置づけ、子ども一人ひとりの発達状況を捉えた指導計画を作成しており、関係職員の合意の基に確認する仕組みを構築している。 また、年齢別と個人月指導計画が連動しており、日々の保育に生かしている。	計画の定期的な見直しと実践を、継続して取り組みます。
② 定期的にサービス実施計画の評価・見直しを行っている。	a	定期的に評価・見直しを行い、変更部分は赤ペンで日付を記入しており、その結果を次のサービス計画につなげていくための組織的な仕組みを構築している。	

◆ 細目の評価結果（内容評価34項目）

項 目	評価結果	優れている点・改善を求められる点	評価結果に対する事業者からの意見
1 子どもの発達援助			
(1) 発達援助の基本			
①保育計画が、保育の基本方針に基づき、さらに地域の実態や保護者の意向等を考慮して作成されている。	a	アンケートやクラス懇談、個人面談等での保護者の意向を確認し、年間計画・年齢別月計画・個人月計画に反映させている。	地域の実態や保護者の意向を考慮した実践を取り組んでいくと共に、計画に対する定期的な評価を実施し、次の計画へ反映させていきます。
②指導計画の評価を定期的に行い、その結果に基づき、指導計画を改定している。	a	指導部会の中で年間指導計画や個人月計画等の評価・反省を定期的に行い、翌月の計画へ反映させており、主任保育士が確認のうえ計画を見直している。 また、個別の記録をファイリングし、入園当初からの成長が把握できるよう工夫している。	
(2) 健康管理・食事			
①登所時や保育中の子どもの健康管理は、マニュアルなどがあり子ども一人ひとりの健康状態に応じて実施している。	a	健康観察マニュアルに基づき与薬も含めて実施し、連絡ノートや健康チェック一覧表により子ども一人ひとりの健康状態を把握・管理している。 また、早朝登園児に関しては、職員連絡ノートにより確実に情報を共有している。	普段から、子ども達一人ひとりの体調を把握し、変化等があった場合には、迅速且つ適切に対応していきます。
②健康診断の結果について、保護者や職員に伝達し、それを保育に反映されている。	a	健康診断を年2回実施し、その結果を報告書として保護者に直接手渡しているほか、医師への確認事項等を事前にうかがい、職員が代行して確認のうえ保護者にも伝えている。 園ではコピーを保管し、その内容を児童票にも記載して全職員に周知し、個人月計画にも反映させている。	嘱託医との連絡を密にし、入所児の成長・発達に関する配慮を十分に行っていくと共に、保護者に対しても、適切なアドバイス・援助を行っていきます。
③歯科検診の結果について、保護者や職員に伝達し、それを保育に反映されている。	a	歯科検診を年1回実施し、健康診断結果と同様に検診結果を保護者に手渡しているほか、確認事項があれば職員が代わりに確認のうえ保護者にも伝えている。	

項 目	評価結果	優れている点・改善を求められる点	評価結果に対する事業者からの意見
④感染症発生時に対応できるマニュアルがあり、発生状況を保護者、全職員に通知している。	a	<p>感染症マニュアルを整備し、発生時には「おたより」、連絡ノート、掲示板により保護者や職員に対して速やかに通知している。</p> <p>園内掲示は、予防も含めてこまめに行っており、職員は毎月1回の検便を実施している。</p>	<p>各関係機関と迅速に連絡を取り合い、感染拡大を最小限に抑え、保護者・職員が共通認識の基に適切に対応していけるようにします。</p>
⑤食事を楽しむことができる工夫をしている。	a	<p>食事前に手遊びや歌、おやつ時にはテーブルに花を飾るなど、楽しい雰囲気づくりに努めている。</p> <p>また、保育室には野菜の写真を掲示したり、菜園で収穫した野菜を給食に利用するなど、子どもが分かりやすいよう工夫している。</p>	<p>改定・保育所保育指針に沿った食育活動を展開していき、子ども達が食事を楽しめるような取り組みを行っていきます。</p>
⑥子どもの喫食状況を把握するなどして、献立の作成・調理の工夫に活かしている。	a	<p>職員が交代で検食を行い、検食簿に残食量も記録して保管しており、年齢や月齢、発達状況や体調等の個人差に配慮しながら量の加減や調理方法を工夫している。</p> <p>また、栄養士及び調理員が保育士と連携し、定期的に給食会議を開いて献立や調理に反映させている。</p> <p>さらには、低年齢児のため魚の小骨を丁寧に一つひとつ取り除き、調理員の後に保育士もチェックするなど安全に配慮している。</p>	<p>食事やおやつは手作りを基本とし、旬の食材や季節感を考慮した給食提供を心掛けます。また、一人ひとりの喫食状況を把握し、給食の献立や調理に反映させていきます。</p>
⑦子どもの食生活を充実させるために、家庭と連携している。	a	<p>毎月の園だよりやホームページで献立表を掲示し、その日の幼児食と離乳食のサンプルを玄関横に展示しているほか、生活表や連絡ノートでも保護者に摂取状況を伝えている。</p> <p>また、家庭での参考となるよう「離乳食のすすめ方」の冊子を保護者に配布しているほか、子どもの食事相談にも対応している。</p>	<p>展示食や園だより、また、連絡表や離乳食冊子の提供など、家庭でも「食」について関心を持てるように、子育てのヒントになるような情報提供をしていきます。</p>

項 目	評価結果	優れている点・改善を求められる点	評価結果に対する事業者からの意見
⑧アレルギー疾患をもつ子どもに対し、専門医からの指示を得て、適切な対応を行っている。	a	<p>かかりつけの医師からの指示書を受け、調理員や保育士、保護者の三者で書類を基に確認・調理しながら代替食を工夫している。</p> <p>また、間違いのないようお盆やプレートで識別し、職員にはアレルギー疾患について必要な知識を周知している。</p>	<p>医師からのアレルギー指示書に沿った対応をしています。</p>
(3) 保育環境			
①子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	a	<p>各保育室に季節毎の温度等の目安を掲示し、空気清浄機やこまめな換気により適切な温度・湿度の保持に努めている。</p> <p>また、遊具等の定期点検や、手洗い場やトイレの安全確保のほか、寝具専用の掃除機をかけて日光消毒するなど、清潔を保つために工夫している。</p>	<p>適切な温度・湿度を管理し、子ども達が楽しく・安全にすごせる環境作りに取り組んでいきます。</p>
②生活の場に相応しい環境とする取り組みを行っている。	a	<p>ゆっくり眠れる環境を確保しており、保育室や廊下などには職員と子どもの手作りの飾りを付けるなど、楽しく過ごせる雰囲気づくりに努めている。</p> <p>また、屋外での活動は隣接する市の公園を利用しており、夏には屋上でプール遊びも行っている。</p>	
(4) 保育内容			
①子ども一人ひとりへの理解を深め、受容しようとしている。	a	<p>指導計画や個人月計画に一人ひとりへの理解や配慮、援助を明記しており、年齢に合った遊びや一人ひとりに合った声かけなど、子どもの気持ちをよく受容している。</p> <p>また、子どもの質問にすぐ答えを言うのではなく「どうしてかな？」と子どもが考える問いかけをしている。</p>	<p>子ども達一人ひとりの理解と配慮、それに沿った保育を行っています。</p>

項 目	評価結果	優れている点・改善を求められる点	評価結果に対する事業者からの意見
②基本的な生活習慣や生理現象に関しては、一人ひとりの子どもの状況に応じて対応している。	a	おむつ交換やトイレ誘導の分担が決まっており、連携がスムーズである。 排便後にはおしりを温水で洗い、清潔と心地よさに努めているほか、「自分で」との気持ちを大切にして、衣類の着脱を自らできるよう支援している。	子ども達一人ひとりの成長・発達状況に合った対応を心がけます。
③子どもが自発的に活動できる環境が整備されている。	a	年齢に合った玩具や遊具を準備し、手作りの遊具もあり、子どもたちは自分の好きな遊びを楽しんでいる。 職員は、子どもが自発性を発揮できるよう働きかけている。	安全面に十分配慮しながら、自発的な活動が行える環境作りに取り組みます。
④身近な自然や社会と関われるような取り組みがなされている。	a	畑での野菜づくりに関わったり、散歩や隣接する公園を活用して自然や地域の人たちと接している。 2歳児は「宝島探検」として路線バスや電車に乗ったり、白鳥ツアーや神社へのお参り等、自然や社会と関われる機会を多くつくっている。	豊かな自然と様々な人々との関わりを大切に、心身の成長と発達に活かせるよう計画・実践します。園外での保育活動も積極的にを行います。
⑤さまざまな表現活動が自由に体験できるように配慮されている。	a	ぬりえや折り紙、ブロックなど好きなもので自由に遊んでおり、各保育室には子どもの手作りのお雛様を飾っている。 また、紙芝居や子どもの求めに応じて絵本の読み聞かせを積極的にとり入れている。	子ども達が自らの表現方法で表現出来るように環境を整備し、表現したものを尊重し喜びを共有していきます。
⑥遊びや生活を通して人間関係が育つよう配慮している。	a	低年齢なりの異年齢交流保育計画を実施しており、日々の遊びの中でも自然に異年齢交流が図られ、おもちゃの貸し借りなどは見守りながら、お互いに納得がいくよう対応している。 また、給食やおやつ時のあいさつ、行事等の当番活動、手洗い時の順番等、生活を通して基本的なルール等が身につくよう配慮している。	低年齢児なりの異年齢保育活動や普段の遊び・生活の中で保育士が見本となり、繰り返し関わり方を見せたり言葉を交えて知らせながら、友達やまわりの人々とどのように関わっていけばよいのかを伝えていきます。

項 目	評価結果	優れている点・改善を求められる点	評価結果に対する事業者からの意見
⑦子どもの人権に十分配慮するとともに、文化の違いを認め、互いに尊重する心を育てるよう配慮している。	a	保育理念や基本方針に基づき、職員はすべての子どもと平等に接しており、子どもの権利擁護についても研修等に参加して理解を深めている。	保育基本方針に沿って個人を尊重した保育を行います。
⑧性差への先入観による固定的な観念や役割分業意識を植え付けないよう配慮している。	a	出席簿は男女混合の生年月日順にしており、トイレのスリッパは色で区別しておらず、服装にも性差の先入観を入れないよう心がけながら対応している。	性差への固定的な概念や意識をする事がないよう保育に取り組みます。
⑨乳児保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる。	a	調乳の仕方や時間、睡眠時間など個別対応の仕組みを整備し、乳児保育室に「離乳食進行表」を掲示して、保護者や保育士の共通理解を図っている。 また、乳幼児突然死症候群（SIDS）のマニュアルも整備し、睡眠中は5分毎に寝息や状態をチェックしている。 なお、使用後のオムツを保育室で保管し、送迎時に保護者が持参しているが、感染症や衛生面にも配慮しオムツの処理方法等について工夫してほしい。	オムツを保護者が持参し処理することについては、保護者が排便の様子から健康状態を把握し、通院した際に必要な説明が医師等へ出来るように、持ち帰ってもらうようにしてきた。オムツの管理については、嘱託医と連携し、より感染症や衛生面に配慮した取り組みを行っていけないか協議・検討した上で、実施していきたい。
⑩長時間にわたる保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる。	a	延長保育の子どもには、午後6時過ぎに保護者の意向に沿って、夕食に差し支えない程度の軽食を出しており、必要に応じて帰宅後の食事摂取状況も確認している。 また、引継ぎノートにより職員間で共有事項を確認し、保護者に対する連絡も申し送りしている。	長時間保育を行うための保育環境を整備すると共に、保護者への伝達事項や申し送りが確実に伝わるようにしていきます。
⑪障害児保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる。	a	かかりつけ医師の指示に基づき、できる限り同じ保育士が担当しており、発達課題についての話し合いも行っている。	障害児保育については、秋田市児童家庭課（公立保育所）主催のサポート研修に毎年1名を派遣し、知識習得に努めているとともに、職場環境整備に努めている。

項 目	評価結果	優れている点・改善を求められる点	評価結果に対する事業者からの意見
2 子育て支援			
(1) 入所児童の保護者の育児支援			
①一人ひとりの保護者と日常的な情報交換に加え、個別面談などを行っている。	a	連絡ノートの活用や送迎時の会話による情報交換をこまめに行っているほか、年2回個別面談を実施しており、その内容と対応について具体的に記入・整備している。	利用者との情報交換の機会を多くし、個別配慮できるよう指導計画に反映します。また、子ども達に関わる全職員が情報を共有化出来るように周知の工夫を図ります。
②家庭の状況や保護者との情報交換の内容が必要に応じて記録されている。	a	日々の情報交換は連絡ノートで行い、必要に応じて児童票に記録している。 また、クラス担当職員の話し合いを月2回以上実施しているほか、全職員に周知が必要な事項は指導部会で話し合いのうえ会議録に記録している。	
③子どもの発達や育児などについて、懇談会などの話し合いの場に加えて、保護者と共通理解を得るための機会を設けている。	a	毎日の連絡ノートによる情報交換のほか、個人面談や懇談会、年3回の保育参加等の機会を設けて共通理解を深めている。 また、毎日の子どもの様子をデジカメで撮り、保育室に掲示するなど、保護者が子どもの様子を把握できるよう工夫している。	
④虐待を受けていると疑われる子どもの早期発見に努め、得られた情報を速やかに所長までに届く体制になっている。	a	虐待対応マニュアルを整備し、特にオムツ替えや衣服の着脱時に注意を払っている。 虐待チェックシートや相談援助の流れなどの具体的な内容を盛り込み、情報が速やかに園長に届く仕組みとしている。	
⑤虐待を受けていると疑われる子どもの保護者への対応について、児童相談所などの関係機関に照会、通告を行う体制が整っている。	a	関係機関の連絡先一覧をマニュアルに掲載し、事務室にも掲示しており、照会や通告の体制を整えている。	

項 目	評価結果	優れている点・改善を求められる点	評価結果に対する事業者からの意見
(2) 一時保育			
①一時保育は、一人ひとりの子どもの心身の状態を考慮し、通常保育との関連を配慮しながら行っている。	a	保育室に一時保育の子どもの名前を掲示しており、一時保育担当者を決めて子どもが慣れるまで付き添い、徐々に子どもたちと無理なく交流できるよう配慮している。 また、保護者とのコミュニケーションは一時保育連絡簿及び口頭で行っている。	利用者に配慮した保育環境を整備し、安心して利用してもらえるよう配慮します。
3 安全・事故防止			
(1) 安全・事故防止			
①調理場、水周りなどの衛生管理は、マニュアルに基づいて適切に実施されている。	a	衛生管理マニュアルにより担当者を明確にし、管理チェックリストに基づいて点検を実施している。 また、給食室の衛生管理については調理師が毎日衛生チェックを行い、チェック表により主任、園長が確認している。	衛生管理マニュアルを周知徹底し、環境を整備します。発生時には迅速な対応が出来るように普段から準備等しておきます。
②食中毒の発生時に対応できるマニュアルがあり、さらにその対応方法については、全職員にも周知されている。	a	食中毒対応マニュアルに基づき職員の対応を徹底しており、各保育室には使い捨てマスクやエプロン、消毒液などの嘔吐や下痢時に対応できる用具セットを準備している。	
③事故防止のためのチェックリスト等があり、事故防止に向けた具体的な取り組みを行っている。	a	事故報告書や不適切サービスチェックリストに基づき、検証と防止策を各クラスや指導部会で話し合いながら取り組んでいる。 また、遊具は点検表に沿って定期的に点検している。	事故報告書や不適切サービスチェックリストを基に、検証と防止策を話し合い取り組んでいきます。また、緊急時には迅速な対応が出来るよう定期的に訓練を実施していきます。
④事故や災害の発生時に対応できるマニュアルがあり、全職員に周知されている。	a	危機管理マニュアルを整備して職員に周知しており、各保育室に避難経路図を掲示して毎月避難訓練を実施している。 また、マニュアルの見直しを定期的に行い、改定日を記入している。	

項 目	評価結果	優れている点・改善を求められる点	評価結果に対する事業者からの意見
⑤不審者の侵入時などに対応できるマニュアルがあり、全職員に周知されている。	a	<p>不審者対策のマニュアルを整備し、早番・遅番の職員が園の周りを点検・記録している。</p> <p>また、全職員がホイッスルを首から下げて有事に対応できるようにしているほか、「さすまた」を備えて撃退訓練も行っている。</p> <p>なお、各保育室の窓は、空気の入れ換え以外は施錠を徹底しているが、玄関にカメラやセンサーを設置するなどして、不審者対策の充実を期待したい。</p>	<p>不審者対策としては、年2回行う保護者アンケートからの意見も反映させ、屋上へのライトの設置や玄関施錠時に使用するインターホンの設置などを行ってきた。施設建て替えの計画がある為、現状行える対策を検討し実施していきたいと考えている。</p>